

トピックス
1. 播州日誌 社会的正義について
2. ショートストーリー「女たらしの若旦那」



福留経営労務管理事務所
 姫路龍馬会
 社会保険労務士・行政書士
 福留 章

<h1>龍馬通信</h1>	No. 68
	2023年 8月号

立秋～処暑の候

生と死が交錯する季節

灼熱の太陽
 若者たちの熱い砂浜に
 あふれる情熱と躍動
 ビーチバレーに歓声
 熱闘甲子園 夏スポーツ



出口のない戦争 ウクライナ
 世界中に絶えない
 紛争 難民 飢餓 貧困
 人は愚かで、弱いもの
 始めた戦争を、終わらすこともできない
 国連の無力さには言葉も出ない

子供や女性に対する人権侵害
 両軍の兵士の命に軽重はない
 戦争請負軍団の横行に
 私たちはなす術もない

平和を希求する民の声は
 暗闇の中で抹殺され
 虚構に満ちた正義が声高に叫ばれる
 許されない 厚顔無恥

八日目のセミは 空蝉となり
 命のありったけを吐き出すように鳴き
 わずかばかりの生きた日々を
 あきらめて 道端に亡骸をさらす

命をめぐる明暗
 動と静 生と死が交錯する季節

原爆忌 終戦記念日
 お盆 鎮魂の精霊流し

酷暑の夏に耐えながら
 無念の死を遂げた物故者をしのび
 御霊に
 微力ながら平和を希求する誓いと
 心からなる哀悼の誠を 捧げる





播州日誌

社会的正義について

2022年（令和4年）7月8日、安倍晋三元首相が参院選の応援演説中に銃撃を受け暗殺された。早いものであれから1年が経過した。不思議なことに未だにもって何も変わってない異常さが気になる。山下徹也容疑者は半分黙秘を続け、現在鑑定留置になって居る。公判開始もまだまだ先の話。動機として取りざたされた、容疑者の母親が統一教会（その後名称変更が再度行われているが、本稿では統一教会で表記）の信者で、多額の寄付を繰り返し家族崩壊を招いた。そんな環境で育った山下徹也は、統一教会の「もっとも影響力のあるシンパ」であることを理由に、安倍を標的にしたとされている。

統一教会といえば霊感商法、偽装勧誘、合同結婚式、多額の寄付強要など、常軌を逸した活動が物議をかもし、刑事事件にもなった。教祖であり現総裁の、韓鶴子は韓国人であり反日思想を前面に押し出している。勝共連合を仲立ちにして政権与党である自民党と深く結びつき、地方議員とも離れがたい関係性を維持している。総裁は演説の中で、異国の総理を呼び捨てにし呼びつけて反省させ謝罪させる、教育しなければならないと述べている。

国際関係であれば大変な侮辱行為であり世界中から糾弾される。

自民党と統一教会は、思想信条を一つにするものではない。何故深く結びついているのか。要するに選挙時の選挙協力と集票マシンとしての有用性にある。票の為ならなんでもありというなら、日本の政治家の矜持（プライド）を疑わざるを得ない。協会をはっきりと反日思想を打ちだしている。「日本は先の戦争において韓国に迷惑をかけた。だから、いま日本が損害を賠償するために金を出すのは当たり前」と言っている。勝共連合といっても北朝鮮に龐大な資金が流れ、中国とも接近している。地方議員と統一教会の結びつきは根深く動かし難いものようだ



余りにも鈍い行動には、そんな自民党の都合が見え隠れしている。統一教会と関わりのある政治家は野党の中にも存在し、さらに追及を鈍いものにしてしている。聞き取り調査は今も断続的に続いているが、最終的に「解散命令」が出るのはあり得ない話とされている。

信教の自由は尊重されなければならない。しかし少なくとも宗教団体は、社会的正義の基盤の上に立つものでなければならない。社会的正義とは、つまり公平、公正、平和なものでなければならない。人民の救済、人民への奉仕、人民への共感があってこそ、宗教として認められ、人々の尊敬を集めることができる。統一教会が反社会的集団であることは明らかであり、カルト集団でないというならその実相を見せてほしい。教団幹部としてカルト集団のお先棒を担っている日本人。洗脳されているという偽装のもとに確信犯的に犯罪行為に手を染めている。彼らは非人間的な顔を持つ、守銭奴と言って過言ではない。

山上徹也容疑者の罪は消えるものではない。しかし、この事件を彼一人の罪に陥れてしまうことは決して許されない。私たちは社会正義の名において、糾弾すべき巨悪の存在を知らねばならない。

2023. 7. 27

～南国土佐を後にして～

第13回 「高知編」

手首に結ばれたハンカチ

刻々とその日が近づいてきた。出発前夜、眠れぬ夜。過去と未来が交錯して頭の中が、混沌としていた。YTさんとは「これが最後だね」と言いながら2～3度デートした。夜、別れ際名残惜しそうにバスに乗る彼女の後姿に苦しいほどの恋しい気持ちを抑えるのが精いっぱいだった。

いよいよ出発の日が来た。何もかもがふわふわとして、雲の上を歩いているような感じだった。近所や家族に挨拶をして、1時間ほど早く高知駅に着いた。YTさんと待ち合わせをしていた。小さな喫茶店でコーヒーを飲みながら向かい合った。何も話さない二人、何も話せない二人。時間だけが小さな時間を刻んでいる。時間に追われて「向こうに行っても必ず手紙書くから」「うん、必ず返事するから」やっとできた約束。「これ、左手に巻いて」「自然に解けるまでしといて」「私はこれ、赤いハンカチあなたはブルー」長袖の裏にそっと隠すようにして結んだハンカチ。「ありがとう、これまでのこと、本当にありがとう。」「私の高校生活をバラ色にしてくれた人、これからもよろしく。」感情がこみ上げてくるのをじっとこらえる二人。とぎれとぎれに、絞り出すようにして話をする。

プラットホームに出る時刻。母や姉、中高時代の友人、高知からは関西方面に出る人がほとんどで東京組は少数派。狭いホームは30人以上の人であふれ人目を引いた。握手を交わし肩を抱き合う。がんばれよ、病気になるよ、夏休みには帰って来いよ。など多くの人に励まされ、顔は上気したままだった。最後まで母親と声を交わす事が出来なかった。後ろの方で遠慮勝ちに送ってくれた母は終始泣いていた。これまで私を一度も叱ったことのなかった母。兄弟の中でも最も私を可愛がってくれた。感謝と決意を新たにする。

YTさんのことはオープンだったので、彼女が隣の駅（後免駅）まで同乗して見送ることはみんなが知っていた。発車のベルとともに万歳三唱。晴れがましく喜びの一瞬だった。

後免（ごめん）駅までは5分程度。デッキで最後まで手を握り合っていた。会話は列車の音にかき消されて聞こえない。見つめあうことで言いたいことが理解できた。あっという間に5分が過ぎて後免駅に着いた。「さようなら」。プラットホームの彼女の唇が動いた。「あ・い・し・て・る」

時間どおりに特急列車は走る。彼女が景色の中から消えた時、私は堰を切ったように泣いた。誰もいないデッキで。それは彼女との別れを惜しむ涙だけでなく、18歳まで過ごした「神戸」と「高知」。二つの故郷（ふるさと）への惜別の涙でもあった。あれこれと思いが重なり情景が頭をめぐり涙はとめどなく流れた。山田駅まで15

分。思い直して指定席に座る。対面のおばさんが話しかけてくる。「どこへ行くがよ」「つらいねー」「泣いたらええ」

「泣いたら少しは楽になるから」。「ありがとう、何ちゃあないき」「大丈夫」。

特急南風は、私の未練を引き裂いて、未来へ走る、走る。高松港から岡山宇野港まで連絡船。出航の時、別れの曲が流れる。当時流されていた曲。「南国土佐を後にして」。

「なーんごくーとーさを あーとにしーて」私は奥歯を強くかみ、あふれてくる感情をおさえ込んでいた。汽笛と潮騒。

18歳 旅立ちの日



第4回

社労士 野口 亮 がゆく

今日も愛車のプリウス「くにみ（923）号」で会社訪問に出かける。社会福祉法人の施設長からの依頼。運転をしながら概要を反芻する。5か月ほど前から「体調不良」を理由に休みだしたAさん、28歳、男性。きっかけは職場での上司とのトラブル。介護の仕方について注意され、無能呼ばわりされたのがトラウマとなり、家に閉じこもるようになった。診断書には「適応障害」。1か月の自宅療養を要すとあった。

終業規則上の休職期間3か月を過ぎ、もう5か月になる。法人としては担当者が何度も連絡を取ろうとしたが、うまくいかず、折り返しの返信もない。



施設の応接室。施設長、理事長を前に、野口が意見を述べる。とりあえず今月末が休職期間の満了の日になる事を内容証明郵便で連絡するとともに、一度出社することを促し連絡のない場合は、退職手続きに入るとの趣旨を伝える。出社に応じてくれば、施設長と私で面接をして、今後の業務に耐えられるかどうか、就業の意思はあるかなど話し合いをすればいいとの提案をした。数日後予想通り休職期間満了の1週間前に出社するとの連絡が入った。

以下 次号

※923 くにみ号のくにみは妻の名前

創作 ショートストーリー

女たらしの若旦那

土佐に住み着いた妖怪「しば天」。日がな1日これといったルーティーンはない。水辺に住んで、食うものにもさして困ることもない。行きかう農夫たちのうわさ話に聞き耳を立てる。高知城下の小間物屋の若旦那富三郎。これが大変な女好きで金と身分に任せてやりたい放題。そのうち身上（しんしょう）をつぶしてしまうだろうともっぱらの噂。当主をはじめ家族も途方に暮れて、神頼みの毎日。

よしよし、俺の出番とばかり、しば天、張り切って高知城下に出張する。女に変身するのはお手のもの。妖艶な女になりすまし、お店の前をうろうろ。たちまち、このあほ、違う女たらしの若旦那。「あのを、見かけぬお方じゃが、袖すれ違うも多少の縁」「チックと一杯飲まんかえ」「あい、あい。うちもチックと一杯飲みたいと思うちょっとところ」あっという間に二人連れ。船宿（ラブホ）にしけ込んだ。チックと一杯が二杯、三杯……。グデングデンに酔いしれて。次第に接近し、くんずほぐれず。しば天の化身がほどけて正体が見え隠れ。「あれ、おまん、女と違うにゃ」「河童じゃろうが」「旦那さーん、すもう取る、取ろうちや・・・」「おんしゃなんなら」「おらしば天よ」。延々とふんどし一丁で相撲とる。精も魂も尽き果てた、女たらしの若旦那。ついに一言「もうえい、女はこりごりじゃ」

その後は商売にも、少々身を入れるようになったとか。

「よかった、よかった」「まっこと、よかった」



夏季休業のお知らせ

当事務所の盆休みは8月11日（金）～8月15日（火）までです。
なお緊急の場合には、090-1961-9588 までご連絡下さい。